

ひだまり



MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

超高齢期

社会福祉法人マザアス
理事長 高原 敏夫

「100歳以上高齢者・5万人超え年々増加」、—日本の経験に世界が注目—

メルマガ記事の見出しである。

厚生労働省によると、2014年9月時点の日本の100歳以上の高齢者数は5万8820人。前年より4482人増えている。そのうちの87.1%を女性で占めている。

100歳以上の高齢者が人口10万人あたりに占める割合は、日本が42.76人で世界一。(2位はフランス 36.5人)。人数の比較でも日本は世界一—というのだから驚きである。(2位は米国 5万3364人)

100歳以上の日本人は、調査が始まった1963年には153人であった。その後1998年に1万を突破、2012年に5万人を超えて、年3000~4000人のペースで増えている

米国のリサーチグループは「2050年には日本で100歳以上の高齢者が70万人に達し、米国(40万人)を大幅に上回ると予想している。」という記事を目にしたことがある。この傾向はわが法人の各事業所でも影響があって、東久留米3人、日野3人、新宿1人入居しているのが現状だ。

従来「人生の6段階」として、幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高年期という区分があるが、高齢期を一括りにするには無理がある。老年学では前期高齢者(65歳以上75歳未満)、後期高齢者(75歳以上)の2期に区分する場合と、前期高齢者(65歳以上75歳未満)、中期高齢者(75歳以上85歳未満)、後期高齢者(85歳以上)の3期に区分する場合がある。一方では75歳以上を後期高齢者、85歳以上または90歳以上から超高齢者とする考え方もあるようだ。

何れにしても、100歳以上の高齢者が増加しつつあるときに「90歳以上を超高齢期(オールデスト・オールド)」と定義するのが定着してきている。100歳大国を世界が注目しているときに、高齢者福祉に従事している者として、「超高齢者ケアの確立」は今後大きなテーマとなると思われる。

乳児と幼児の育児に違いがあるように超高齢者ケアには違いがあるのではないだろうか。乳児ケアでは離乳食、スキンケア、マッサージ等を重視しているように、超高齢者ケアで大切にしなければならないことを差別化する必然性があるだろう。

平成27年度 法人の経営状況

1. 法人単位の資金収支の状況

項目	金額(千円)
(1) 事業活動資金収支差額	101,317
① 事業活動収入	2,150,731
・介護報酬等の公費(※)	1,742,763
・利用者負担金(※)	377,581
・その他収入	30,387
② 事業活動支出	2,049,414
・人件費支出	1,533,492
・事業費支出	277,840
・利用者負担軽減額	796
・その他支出	237,286
(2) 施設整備等資金収支差額	▲128,958
① 施設整備等収入	67,800
・施設整備補助金等の公費	67,800
・その他収入	0
② 施設整備等支出	196,758
(3) その他の活動資金収支差額	35,858
① その他の活動収入	79,839
② その他の活動支出	43,981
当期末資金収支差額	8,217
前期末支払資金残高	655,957
当期末支払資金残高	664,174

(※)端数処理の関係で合計が一致しないこともあり得る。

2. 法人単位の事業活動の状況

項目	金額(千円)
(1) サービス活動増減差額	29,561
① サービス活動収益	2,122,608
② サービス活動費用	2,093,047
減価償却費	184,406
国庫補助金等特別積立金取崩額	▲125,984
その他サービス活動費用	2,034,625
(2) サービス活動外増減差額	6,567
① サービス活動外収益	28,144
② サービス活動外費用	21,577
(3) 特別増減差額	5
① 特別収益	94,404
② 特別費用	94,399
当期活動増減差額	36,133
前期繰越活動増減差額	517,498
当期末繰越活動増減差額	616,044
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	25,864
その他の積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	641,908

(※)端数処理の関係で合計が一致しないこともあり得る。

3. 法人単位の資産等の状況

項目	金額(千円)
(1) 資産の部	5,536,955
① 流動資産	761,179
② 固定資産	4,775,776
合計	5,536,955
減価償却累計額	3,595,970

(※)端数処理の関係で合計が一致しないこともあり得る。

項目	金額(千円)
(2) 負債の部	878,325
① 流動負債	150,073
② 固定負債	728,252
(3) 純資産の部	4,658,630
合計	5,536,955

4. 積立金の状況

貸借対照表上の積立金の勘定科目	積立目的	本年度末時点の積立金額(千円)
その他の積立金	その他の積立金	24,146

5. 関連当事者との取引の内容(該当無し)

編集後記

日本では2014年に、大人用紙おむつの売り上げが赤ちゃん用を上回った。表紙に掲載した超高齢化と併せて、少子化も進んでいる。

人口4000万人以上の主要国を比べると、子どもが全人口に占める割合で日本は12.7%と最下位。米国は19.3%、英国は17.6%、中国は16.5%、韓国は14.3%、ドイツは13.1%となっている。

現在、生産年齢人口100人に対して65歳以上の高齢者は約42人だが、2023年初めには高齢者は50人に達する見込み。社会保障では2人の現役世代が1人の年金世代を支える時代がすぐそこまで来ている。(nippon.comの記事より一部引用)

(編集担当 黒澤信一 メール: office@moth.or.jp)

マザアス東久留米の地域における公益的な活動/社会貢献活動

I. 社会福祉法人の責務

「社会福祉法等の一部を改正する法律」では、非課税等の優遇措置を受けている社会福祉法人は、「公共性」や「公益性」を十分に発揮し、地域社会に対して公益的取り組みを行う事が責務とされました。これまでも多くの社会福祉法人は、社会病理現象やそれに苦悩する人々に、制度の有無や公的財源の有無にかかわらず、自発的・先駆的に救いの手を差し伸べてきた歴史があります。

近年「地域貢献」や「社会貢献」が声高に叫ばれてきた背景には、既存の社会福祉や社会保障の制度では対応しきれない多様化・複雑化した社会的困難に対し、社会福祉法人が先駆的に対応していくことへの強い期待があると言えます。

地域にどのような課題があり、法人や施設ができることは何かを探る上では、社会福祉法人だけの発想で一方向的に実施するのではなく、制度の枠や業界の枠を超えて多様な主体と連携を図るなど、地域の方々と一緒に「地域が必要としていること」に向き合い、共に取り組む姿勢と柔軟な発想が必要となるでしょう。

II. マザアス東久留米の取り組み

マザアス東久留米における「公益的な取り組み」の例を紹介いたします。

① 地域交流活動

地域社会との交流や関係づくりを主とする活動です。マザアス東久留米の存在や事業内容を広く知っていただき、困った時にマザアスを地域資源として活用して頂けるよう認知度を高めていくこと、およびマザアスが地域の情報を得て、地域社会への参加や協力をしていくことが目的です。

『ボランティア活動の支援』や『懇談会』、『バスドライブ』、『とも・いきバザー』、『トークサロン』などを実施しています。

★★バスドライブ★★



楽しく元気にボランティアや地域活動を継続していただけよう懇談会やバスドライブなどを企画し、地域の皆様と交流を図っています

★★とも・いきバザー★★



近隣自治会同士やマザアスとの連携、交流等を深めるために、毎年秋にバザーを開催しています。売上金は積立て、地域に役立つ物を購入することになっています

② 自助・互助の力を高めるための取り組み

超高齢化社会を、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていくためには、自助の力、互助の力を高め、地域で支え合うことが必須となります。マザアス東久留米では、地域で支え合う力を高めていくための取り組みとして『マザアス健康体操』『オレンジカフェ「和」』『研修会』や『地域防災後総合訓練』などを行っています。

★★マザアス健康体操★★



元気高齢者の仲間を増やそう！



ストレッチやセラバンドで、楽しく運動！！

★★オレンジカフェ「和(なごみ)」★★



オレンジカフェ
なごみ
和

地域の中で認知症の理解が進み、認知症の人が過ごしやすい居場所づくりの輪が広がりますようお願いを込めつつ、認知症サポーターの方々と一緒に試行錯誤しながら進めています

★★地域防災総合訓練★★



いざという時に地域と施設が助け合い、お互いの力になれるよう日常的に交流を図り、学習や訓練に取り組みます

③ 法人・施設が持つ専門性や事業規模を活かした取り組み

施設が保有する専門的な知識や情報など、人的・物的・情動的な資源を活かし、研修会や発表会などの取り組みを行っています。

★★生活困窮者就労訓練事業★★

“働きにくさを抱えた人”に対して、その人に合った働き方や仕事内容を考え、働く場を提供する事業です。また、“長期間自宅から外出する機会がなかった方”へ、他機関と連携を図りながらボランティア活動など場を提供し、外出する機会や場所の提供も行っています(ひきこもりの方への支援)。



★★来所給食★★

お一人暮らしや高齢者だけの世帯などの理由により、手作りの食事を摂る機会の少ない方々に、安価で栄養バランスの良い食事を提供するサービスです。



マザアスに来所して食事をしていただくため、外出の機会になり、食堂で職員と一緒に食事をするため、交流や会話の機会ともなります。また、予約制であるため、安否確認の役割も担うことができます

今後も、地域ニーズの把握や施設職員の意識改革を進めていけるように、地域との交流を継続し、公益的な取り組みを進めていきます。

(マザアス東久留米 施設長 松澤雅子)